

先月の初めに、曹洞宗大本山永平寺においての実践布教研究会という各宗派の僧侶が宗派を超えて話し合う研修会が行われ、私も時宗の代表として参加して参りました。



さて、この研修会は会議と併せて、NHKの放送で一躍有名になった永平寺の複雑な食事作法や座禅が中心の「永平寺の修行」を体験させていただけるものでした。

到着した次の日から、永平寺の修行僧と同じ起床時間である午前三時に起こされ、いきなり一時間半の座禅が始まります。曹洞宗の座禅は他の禅宗（臨済宗・黄檗宗）と違い、座禅中は「無心」でなければならず、ある意味我々の念

仏三昧と同じ境地であるように感じ、座禅をしない宗派の自分にとってもとてもすがすがしく、他宗の作法とは思えない大変気持ちの良いものでありました。

次に、朝のお勤めが終わり、いよいよ朝食の時間となります。この食事、つまりは食事作法の体験というものが、正直なところ本当に苦痛でございました。朝食として、お粥・漬物・お茶が出されたのですが、作法が複雑な為にこの三品をいただくのに一時間半近くの時間がかかります。私達の宗派の修行の食事に対する考えは『とにかく早く食べてしまおう。』ことでしたので、正直何故このような複雑な食事作法があり、その為にこのように沢山の時間を無駄に使うのか、といった疑問が食事中常に頭の中を駆け巡っておりました。この「永平寺の食事作法体験」はこの朝食と同日の昼食の合計二回でございましたが、昼は少し慣れた事もあり作法も手際よく出来るようにはなりましたが、所要時間は同じようなものでございました。

しかし、たった二度の食事作法の体験ではありましたが、昼食の際、朝に私が考えた疑問が、ほんの少しだけですが解けたような気が致しました。食事を「いただいている。」ということを感じてくれる為の時間は、本当は一時間以上の時間が必要なものであり、けっしてそれは無駄な時ではないのである、と。

『「食事」という毎日行われている行為だからこそ忘れてしまっている、それに対する感謝をもう一度思い起こさせていただいた』この修行体験に感謝すると共に、永平寺ご老僧の方々のご法話の中にも、常に「いただいている。」という言葉が多用されていることに気づき、とても感心致しました。

今年の冬に時間が出来れば、もう一度この体験修行に出かけようかと考えております。宜しければ、皆様も参加してみませんか・・・

## 住職着任より、1年を振り返って。

この1年間、色々な方と沢山のお話をお聞きし、普照院の過去の行事や出来事などとても貴重なことを教えていただきました。そして、その中での当寺院の混迷の時代に、皆様がお寺の為にご尽力していただいたこと、大変感謝しております。

その最中に、お檀家様として

不明となってしまうお家族(井上和尚からの引継書類内の住所録に記載が無い等)のお位牌・お遺骨が、本堂内に安置されたままとなっております。

お位牌はお弔いが必要となり、またお遺骨はどのような安置をご希望されておられたのか、故井上和尚又はそれ以前の和尚からの伝達が不可能な為、直接お檀家様にお尋ねするしかございません。

下記の中で、ご親戚や親族のお名前を発見された方がございましたら、大至急お寺にご連絡の程宜しくお願い致します。特に氏姓が変わられた女性の旧家で、絶家等になってしまわれた方のものが多いようなので、ご注意下さい。

(以下順不同)

縄舟家	安部家	井出家	上垣家	岸本家	酒井家	角家
青木家	谷崎家	長井家	兵藤家	井元家	擲家	岨家
福岡家	今井家	足立家	福岡家	笹倉家	田中家	田伏家
豊島家	名田家	羽岡家	星野家	御影家	佐野家	水口家

[以下墓地内不明家]

草野家	斉家	熊崎家	中塚家	中村家	花光家	酒井家
保津家	西村家	名田家	佐古田家	細目家	広瀬家	藤橋家

[編集後記]

ここ2~3ヶ月の前の話でございますが、神戸市兵庫区を中心に仏像泥棒が多発しておりました。とにかく、白昼堂々と持って行ってしまいうらしく、短時間に手当たり次第持っていけるものは全て盗られてしまうようです。正直なところ、当寺院もセキュリティーは万全とは言えず、犯人も一部は検挙されたようですが、不安な毎日を過ごしております。「お金が手に入れば、何をしてもかまわない。」という人間が、増えているように思います。

合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田宗治

☎653-0861 神戸市長田区林山町 17-1

TEL078 - 691 - 5688

ホームページ：http://www.geocities.jp/husyohin2006/